

平成26年度 岩美中学校研究推進計画

研究推進委員会

◆学校教育目標

- ・生活のリズム（望ましい睡眠・食事のあり方、メディアとのつきあい方）、生活習慣（身だしなみ、清潔感、整理整頓）を定着させ、自主・自立の精神を養い、共生の精神を尊重する人間関係を構築し、学力向上をめざす

◆めざす生徒像

- ・学校、家庭で真剣に、集中して学習に取り組む生徒
- ・明るいあいさつ、節度あるきびきびした行動がとれる生徒
- ・ルールを守り、マナーを身につけ、モラルを高める生徒
- ・自分が自分を大切にするとともに、他の人を大切にする生徒
- ・人に喜ばれ、人に役立ち、地域に役立つことのできる生徒

◆研究主題

「表現力を高めるための授業の確立 ～協働的な学びの場面を取り入れて～」

「表現力」とは・・・自分の知識、考えや気持ちを言葉を使って正確に相手に伝える力・受け取る力である。
学校教育活動全般でつけていく言語運用能力・コミュニケーション能力。

<研究を行うことによる目指す生徒の姿>

- 言うべきことを自分で考えて人に伝えることができる生徒。
- 友達と話し合いながら自分の考えをより高め、広げていくことのできる生徒。
- 自分の考えを人前でも恥ずかしがらずに堂々と言える生徒。

◆研究推進の方向・具体的方策

〔方向性〕

- ① 学習指導要領の趣旨を十分に理解したうえで、PDCAサイクルを活かして組織的な取り組みをおこなう。特に、教科主任会および各教科会で具体的な授業改善方策を掲げ、授業研究会では指導助言者を招聘するなどして、本校課題に対するより効果的な研究を進める。
- ② マネジメントサイクルに基づく高い水準の授業づくり

PLAN	DO	CHECK	ACTION
・各教科などにおける生徒の実態把握と実践テーマ、目標の設定 ・教科等経営計画の作成 ・標準学力テスト等の分析 ・学習上の課題解決に向けた方策などの検討	・各教科における取り組み ・理論研究会（全体－講師招聘） ・教科ごとでの日常的な授業公開 ・教科会での検討	・公開授業、学校訪問、授業研究会などにおける外部からの評価 ・学校評価生徒質問紙による評価（年2回）	・各教科などにおける課題の分析と改善 ・教育効果の上がるシラバスの作成

- ③ シラバス・・・一単元の学習目標、学習内容、使用教材、使用計画、指導方法、評価方法などを作成する。

【授業作り、授業力向上への考え方】

- ・カリキュラム
- ・学力

授業方法	授業内容	家庭学習と生活	教育課程
・学ぶ意義 ・つまずきの発見と手立て ・授業を通しての言語力の育成、仲間づくり	・単元のねらいの明確化 ・地域教材 ・発展的な学習	・生活リズムの定着（保護者をどう巻き込むのか） ・つまずかないための家庭学習 ・つまずきを食い止める補充	・モジュール ・反復

- ・ネットワーク

小学校との連携（つまずきを知る・学習過程を知る） 公民館との連携 高齢者との連携

〔具体的な方策〕

(1) 各教科、各分掌、各学年の共通実践

- ・一人一研究授業（1 1 月までに）（校内、町研の授業研究と兼ねても良い）
- ・校内授業研究会（年2回）…米田教授に指導助言として参加していただく。
- ・教科ごとに価値観マップの作成（生徒が30才になったときに身につけてほしい力を明確にする）
- ・教科開きでは、教科会で確認した「教科を学ぶ意義」についてしっかり伝える。
- ・地域教材の開発に努める。合同で行えるもの、流れを踏まえた方がよいものは、同じ日に行うなどの教科間の連携を図る。
- ・単元テストの実施（単元が修了するごとに、単元の内容確認ができるテストを行う）
- ・学習指導要領に沿った各教科・各学年のシラバス・ねらい（問い）の構造化などを作成していく。
- ・自己評価カードの実践（授業力向上のための自己評価カードを全教科で取り入れる）。なお以下の項目については共通して入れること。

①

今日の学習のめあてが達成できたか。	※4段階評価	その理由を書きなさい。	※文章表記
今日の授業の「聞く」の指標レベルは	※5段階評価	今日の授業の「話す」の指標レベルは	※5段階評価

② 「授業でわかったこと」や「本時のめあてに対する振り返り」の記述。（学習内容を再認識させ、学習したことを深める手だて）

- ・**授業形態**を工夫する。

- ① 個人学習、ペア学習、グループ学習、全体学習を考えながら授業を展開する。
- ② 生徒の思考をより高めていくため、問題解決的な学習過程において「協働的な学びの場面」を積極的に取り入れる。

協働的な学びの場面とは・・・共通の課題を追究する過程において、自分の考えを伝え、他者の考えを受け止めることにより、自分の考えを見直しながら集団としての考えを高めていく学習活動。

<効果>・・・自分の考えを再認識したり修正したりして考えが深まる。
自分の考えが認められ、自尊感情が高められる。
生徒同士の信頼関係を築くことができる。 など

③ 話し合いなどの活動を積極的に取り入れ、よりよい考えを導き出す体験を積ませる。

④ ICTについては、協働的な学びを充実・活性化するための手段として、即時性、共有性、保存性という特性を生かして活用する。

- ・つきたい力を明確にし、授業のねらいを生徒に把握させる。
- ・じっくりと思考させたり他者にわかるように表現させたりすることを繰り返す。
- ・ノート指導を強化。板書を写すだけでなく学んだことや考えたことを書き、工夫したノート作りをさせる。
- ・相手意識や場面意識を持たせ、具体例や根拠をあげ、順序に気をつけてわかりやすく伝え合うように心がけさせる。
- ・文字を丁寧に書かせる指導を常に心がける。

なお、教科会、領域担当者会、教科主任会を定期的実施し、生徒の課題把握、対策を検討する。

※音楽と美術については芸術分野として必要に応じて合同の教科会を開催する。

(2) 宿題の出し方を全体で統一する。（生活リズムや家庭学習時間の使い方、宿題の量を調整して実践する）

※）基本的学習時間（平日）学年×40分+1時間（1年…100分、2年…140分、3年…180分）
（休日）平日+1時間（1年…160分、2年…200分、3年…240分）

内容…基本的に国語、英語、数学は毎日宿題をする。（各20分程度でできる内容）

それ以外の教科や補助教材の宿題に関しては1教科15分程度でできる内容にする。

課題チェック表などを活用して、宿題の出し方を教科会で話し合い、調整していく。

時間が余った場合は、自学ノートで自発的な学習を行う。

（平日）1年生・・・宿題（漢字、英語、計算）	1時間	
各教科の宿題（+自学ノート）	40分	合計1時間40分
2年生・・・宿題（漢字、英語、計算）	1時間	

各教科の宿題	40分	
自学ノート	40分	合計2時間20分
3年生・・・宿題（漢字、英語、計算）	1時間	
各教科の宿題	40分	
自学ノート	40分	
新研究	40分	合計3時間
（休日） 平日の内容＋1週間の復習＋週末課題（＋予習）	1時間	

（3）その他

- ・生活日誌の「随想」をできるだけしっかり書かせる指導をする。
- ・集会等を利用し、できるだけ生徒の発表の機会を設ける。

◆研究計画

- ①全体研究会は必要に応じて開催し、提案された内容に基づいて研究を推進、実践していく。
- ②学級活動については、特別活動部を中心として各学年の学活担当者、総合担当でそれぞれ計画を立てて実践していく。道徳は、生活指導部を中心に各学年の道徳担当で計画を立て実践していく。
- ③ 校内授業研究会については、年2回行う。経験者研修と兼ねても良い。

22年 10経 森本敦子先生 5経 山本寛恵先生 キャリアデザイン 吉川先生
 23年 5経 岸本先生（美術） 森田先生（数学） 一人二研究（理科、社会、体育）
 24年 5経 江副先生（国語）
 25年 10経 森川先生（理科） 5経 原田先生（音楽）
 26年 岩崎先生（理科）（模擬授業） 岡 先生（数学）

- ④ 全員が公開研究授業を年間1回は実施し、授業実践力向上を目指す。

- ・全員が11月までに行う。
- ・研究授業をするにあたっては指導案を書く。指導案には必ず次の①②を明確化する。

① 評価規準

② 評価規準が達成されたかどうかをその授業のどこで判断するのか

- ・事前研を行う。・・・上記の①②を中心に指導案をもとに教科会を開き、生徒の学力や発達段階に応じて適切なものか教科の視点で事前に検討しておく。

・授業作りの段階で他教科の教員にも関わってもらい、教科外での視点が授業に生かされるようにする。できる限り授業・研究会にも参加してもらう。（その際、本年度の自己研究テーマ・キーワード一覧を参考にして授業者が声をかける。）

- ・当日は、教科のメンバーはもちろん、授業の入っていない教員は積極的に参観する。
- ・授業研究会を行う。・・・その日の放課後、またはその週のうちに教科主任が中心となって授業研究会（指導助言者、教科担当者、授業を見た教師など）を開き、研究授業を実りあるものとする。
- ・指導案や教科会の記録は全職員が見える形にし、参考にしていく。
- ・研究授業においては視点を明確にしたうえで、協議内容を焦点化する。

- ⑤本年度は5月にタブレット端末が入るため、その使い方、授業での有効な使い方についての校内研修会をできるだけ早い時期に行う。研修後は各自がタブレット端末を用いての授業を考え、できる限り実践する。

5月19日（月） 校内研究についての職員会とタブレット端末を使つての模擬授業（岩崎先生）

5月20日（火） 21日（水）・・・タブレット端末の基本的な使い方についての研修

- ⑥授業におけるタブレット端末活用法をできる限り多く集め一覧表を作成し、実践の参考とする。
（校務フォルダー 研究推進 「タブレット端末活用法」へ入れてください。）